

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称	博物館情報・メディア論						授業形態		講義	
科目コード	710106	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	
担当教員名	山下 真一								ICT活用	
授業概要	博物館は多くのメディアから成り立っており、博物館自体がメディアともいわれている。それは、過去の記録（コレクション＝史料、それに関わる様々な情報・道具等）や情報発信のためのメディアであり、博物館及び学芸員はそれらを取り扱っている。一方で、近年、情報環境が格段に進歩し、それに伴って個人の情報収集能力や発信力が高まっていることから、それに応じて学芸員の役割も多様化している。また、コロナ禍以降、史料のデジタル化が進められ、それにどのような取り組んでいくのかということも重要な課題となっている。本講義では、これまでの経験を踏まえて、博物館の学芸員の立場から関連するメディアの諸相を考え、多様化した博物館及び学芸員の役割について考える。									
関連する科目	3年次生を対象に開講する科目として、講義の理解を深めるために、学芸員資格取得に関する科目のうち、基礎的な2年次開講科目を履修しておくことが望ましい。また他の3年次開講科目を履修することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	前半はメディアとしての博物館という観点から、メディアの種類を概観する。またそれぞれの特性について検討し、重要なメディアの一つである史料（資料）の特性とデジタルを活用した発信方法について考えていく。後半は博物館におけるメディアの活用方法について、具体的にみていきたい。その中でメディア活用の実践例を見ながら、展示や資料情報公開のあるべき姿を考えていく。資料を深く読み込み、そこから伝えるべき情報を引き出し、展示やその他の形で発信する技法や能力をについて考えていくことを目標とする。									
授業計画 【第1回】	メディアとしての博物館 ○本授業の概要説明（ガイダンス） ○様々な博物館施設（動物園、植物園、美術館、博物館、資料館） ○博物館における情報とメディア ○博物館の機能と情報・メディア									
授業計画 【第2回】	博物館の資料情報について ○博物館コレクションの特質 ○博物館における資料情報とは ○博物館は資料情報をどのように使うのか ○博物館資料情報の特質									
授業計画 【第3回】	博物館資料のドキュメンテーションとデジタルアーカイブ ○資料は過去を知るメディアである ○資料情報の発信 ○インターネットと博物館									
授業計画 【第4回】	博物館と著作権 ○著作権とは ○博物館資料の取扱いと著作権 ○デジタルアーカイブ化と著作権									
授業計画 【第5回】	博物館におけるユニバーサルデザイン ○ユニバーサルデザインとは ○宮崎県立西都原考古博物館の取り組み ○ハンズオン展示等について									
授業計画 【第6回】	博物館教育と情報・メディア ○人々の博物館利用とメディアとしての博物館 ○佐賀県立名護屋城博物館の取り組み ○学際研究と博物館									
授業計画 【第7回】	研究と博物館情報・メディア ○生物標本と情報・メディア ○考古資料と情報・メディア ○歴史資料と情報・メディア									
授業計画 【第8回】	デジタル技術の発達と博物館 ○デジタル変革 ○デジタルミュージアム ○デジタル化の取り組みの事例									
授業計画 【第9回】	博物館の広報活動とソーシャルメディア ○博物館における広報 ○ウェブサイト・刊行物 ○プレスリリースと報道 ○SNSの活用と課題									
授業計画 【第10回】	博物館における情報・メディア整理 1 ○資料の整理は博物館の基本 ○都城市史編さん事業 ○市史編さん事業の中で考えた史料の保存と活用									

授業計画 【第11回】	博物館における情報・メディア整理2 ○都城島津家史料目録調査 ○後藤家文書史料調査事業 ○都城市所有・寄託史料調査 ○史料調査事業の成果と課題
授業計画 【第12回】	都城島津邸におけるデジタル化の実践 ○デジタル化の基礎資料 ○東京大学史料編纂所と島津家文書 ○東京大学史料編纂所との連携 ○都城島津邸におけるデジタルアーカイブ
授業計画 【第13回】	各メディアを使った展示実践（その1） ○都城島津伝承館オープン展示「都城島津の至宝」 ○実物資料の魅力を発信 ○展示資料の選定と解説 ○メディアとしての画像資料 ○画像資料の情報とその評価
授業計画 【第14回】	各メディアを使った展示実践（その2） ○都城島津伝承館企画展「都城の人びとのくらしと文化」 ○都城島津伝承館特別展「島津義弘と都城」 ○展示資料の選定と研究 ○展示パネルと図録の作成 ○展示における情報とメディア
授業計画 【第15回】	まとめ ○講義全体を振り返りながら、重要なポイントについて説明する。 ○小テストを実施する。
授業の到達目標	博物館におけるメディアの特性を認識するとともに、実際の展示実践から、机上の理論だけでは学べない経験則を導き出し、共有する。その上で、組織としての博物館や、学芸員としての社会的使命を自覚し、社会一般に対して、展示やその他の活動を通じて能動的に発信できる人材となること。
学位授与の方針 （DP）との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	広義の最後に次回の講義内容について紹介するので、参考図書等で予習しておくこと（30分程度） 博物館等を見学し、施設の状況や雰囲気を理解しておくこと
授業時間外学習【復習】	講義で配布された資料と講義をノートした内容を復習しておくこと（1時間）。機会をとらえて博物館や資料館等に足を運び、展示を作る側の視点から観覧してみる（1時間）。
課題に対する フィードバック	試験及び小テストを実施し、解説を行う。
評価方法・基準	試験と授業への取り組みのあり方での評価とする（100点）
テキスト	授業開始時にプリントを配布する。
参考書	○鶴見英成・近藤智嗣編『新訂 博物館情報メディア論』（放送大学教育振興会、2025年） ○阿児雄之・北岡タマ子他編『ミュージアムの未来をつくる博物館情報・メディア論』（美学出版、2025年）
備考	受講の際は、自分が重要と思う点については、積極的にノートやメモを取るように心がけること。